

平成19年3月期 第3四半期財務・業績の概況（連結）

平成19年1月30日

上場会社名 関西電力株式会社

(コード番号：9503 東証・大証・名証第1部)

(URL <http://www.kepco.co.jp>)
 問合せ先 代表者役職・氏名 取締役社長 森 詳介
 責任者役職・氏名 経理部長 杉本 康

TEL：(06) 6441-8821

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
 ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
 ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 連結（新規）1社 （除外）2社

2. 平成19年3月期第3四半期財務・業績の概況（平成18年4月1日～平成18年12月31日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

(百万円未満切り捨て)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第3四半期	1,906,160	1.6	249,185	△12.6	215,366	△3.5	136,904	△6.3
18年3月期第3四半期	1,876,846	△2.4	285,253	△18.5	223,097	△24.0	146,132	38.8
(参考)18年3月期	2,579,059		327,170		247,552		161,049	

	1株当たり 四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
19年3月期第3四半期	147	78	147	61
18年3月期第3四半期	156	91	156	84
(参考)18年3月期	172	84	—	—

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同期増減率を示す。

[経営成績の概況]

当社グループの主たる事業である電気事業では、夏場の平均気温が前年に比べて総じて低く推移したこと、および11月から12月にかけての平均気温が前年に比べて高く推移したことなどにより、冷暖房需要は減少しました。しかしながら、需要数が増加したこと、また、景気の着実な回復傾向に伴い、設備投資や企業の生産が増加したことなどから、総販売電力量は、1,101億キロワット時と、前年同期を1.2%上回りました。

収入面では、平成18年4月より実施した電気料金の引下げの影響などにより電灯電力料収入が減少したものの、ガス供給事業の収入が増加したことなどから、売上高は1,906,160百万円と、前年同期に比べて29,313百万円の増収(+1.6%)となりました。

一方、支出面では、原油価格の高騰などにより火力燃料費が増加したことや、修繕費が増加したことなどにより、営業費用は1,656,974百万円と、前年同期に比べて65,381百万円の増加(+4.1%)となりました。

この結果、当四半期の営業利益は249,185百万円と前年同期に比べて36,067百万円の減益(△12.6%)、経常利益は215,366百万円と前年同期に比べて7,731百万円の減益(△3.5%)、四半期純利益は136,904百万円と前年同期に比べて9,227百万円の減益(△6.3%)となりました。

(参考) 販売電力量

(百万 kWh、%)

	19年3月期 第3四半期	18年3月期 第3四半期	前年同期比
電 灯	34,711	34,263	101.3
電 力	75,385	74,562	101.1
計	110,096	108,826	101.2

(注)「電力」には、特定規模需要を含む。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総 資 産	純 資 産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19 年 3 月期第 3 四半期	6,763,035	1,866,637	27.5	2,009 97
18 年 3 月期第 3 四半期	6,887,872	1,763,569	25.6	1,903 26
(参考)18 年 3 月期	6,856,489	1,785,985	26.0	1,927 29

[財政状態の概況]

当四半期での設備投資額は、前年同期に比べ 19,359 百万円増加（+10.5%）の 203,555 百万円となりました。しかしながら減価償却費（282,903 百万円）を下回る投資額であったことなどから、当四半期末の総資産は、前年度末に比べて 93,453 百万円減少（△1.4%）の 6,763,035 百万円となりました。

当四半期末の有利子負債残高は、創出したフリー・キャッシュ・フローを有利子負債の削減等に充当した結果、前年度末に比べて 72,755 百万円減少（△2.2%）の 3,251,243 百万円となりました。

また、当四半期末の純資産は、四半期純利益を 136,904 百万円確保できたことや、貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準の適用の影響などにより、前年度末に比べて 80,652 百万円増加（+4.5%）の 1,866,637 百万円となり、自己資本比率は 27.5%と、前年度末に比べて 1.5%上昇いたしました。

これらの結果、1 株当たり純資産は前年度末に比べて 82 円 68 銭増加し 2,009 円 97 銭となりました。

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19 年 3 月期第 3 四半期	381,773	△ 233,155	△ 133,174	71,330
18 年 3 月期第 3 四半期	400,013	△ 216,466	△ 180,035	71,471
(参考)18 年 3 月期	528,878	△ 293,645	△ 247,379	55,811

3. 平成 19 年 3 月期の連結業績予想（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

平成 19 年 3 月期の連結業績予想（通期）について、平成 18 年 10 月に公表いたしました予想数値からの変更はありません。

平成 19 年 3 月期の連結業績予想

	売上高	経常利益	当期純利益
	億円	億円	億円
通 期	26,000	2,050	1,220

（参考）1 株当たり予想当期純利益（通期） 131 円 71 銭

以 上